

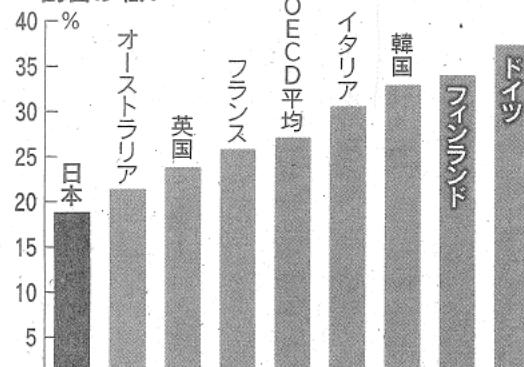
教育進化論

解き放て潜在力 ①



数学オリンピック出場に向け問題を解く「数学研究会」の生徒（川崎市高津区の洗足学園中学高等学校）

日本は大学入学者に占める理工系分野の割合が低い



(注)OECDまとめ、2022年時点、学部段階。「自然科学・数学・統計学」「情報通信技術」「工学・製造・建設」3分野で比較

さよなら文系大国

明治18年(1885年)創設の法律学校が前身の中大。法曹界に多数の人材を輩出し文系イメージの強い同校が理系の要素を強める。目玉は2027年開設予定する農業情報学部(仮称)だ。

法も学ぶ農学部

食やビジネスに関し中大が得意とする法律や社会科学的な知識を持ち、農業のデジタルトランスフォーメーション(DX)にも貢献できる人材を育てる。河合久学長は「文理融合の研究と教育で次世代人材を育てる」と意気込む。

日本は22年度で学部生の45%、私立大に限れば51%が人文・社会科学に集中する「文系大国」だ。

経済協力開発機構(OE

CD)のまとめによると、学部入学者に占める理工系の割合は19%程度と加盟国平均(27%)を下回り、ほぼ最下位だ。

1960年代、第1次ベビーブームの影響で大学進学者が急増した。設備費用が少なくて済む私大文系学部を受け皿にしたことなどが今に続く人材育成の偏りを生んだ。そんな構図に終幕が迫る。

15～64歳の生産年齢人口は2040年に約6千万人と25年比で15%減ると推計される。生産性向上には産業のあらゆる分野でDXが不可欠だ。早い段階で文系と理系を分ける教育をやめないとデジタル社会の人材需要に対応できない。

バイソン必修に

気候変動など地球規模の課題解決にも理系の知が欠かせない。北海道大は19年から高度なデータ

データを読み解き役立てるには数学や統計学の知識が必須で、長い目で

みれば経済成長の土台にもなる。社会人向けの数

学教育を手がける「すう

いと厳しい」とぼやく声

が上がる。

光は見える。私立女子校の洗足学園中学・高校(川崎市)はかつて1学年6クラス中5クラスが文

系だったが理系志望が増え今はほぼ半々。数年后に文系を上回る勢いだ。

4月には生徒有志でつくる「数学研究会」が発足した。中1～高1の生徒が放課後集まり、国際数学オリンピック出場などをを目指して協力しながら難問に挑む。宮坂元子校長は「高2以降の文理分けもやめたい」と語る。多くの専門知を磨いた文系人材は要る。改めてべきは極端な文理分断や

数学力、経済成長の基礎

を設置、自前で育成を始めた。設置当時の17年、情

報系技術者は社員の1%

にあたる93人しかいなか

ったが、文系理系を問わ

ず1500人を育てた。

同社が主力とする空調

システムも今は「快適さ

」の学習を1年

生の必修にした。「デ

ータは世界の人々と課題の

解決策を考える際の共通

言語「Python(パイソン)」の

副学長は語る。

必修化の影響か、最近

は文系学部出身の学生が

大学院で情報科学を学ぶ

製品やサービスの向上に

生かす力が全ての社員に

必要だ」と話す。

副学長は語る。

必修化の影響か、最近

は文系学部出身の学生が

大学院で情報科学を学ぶ